

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡本, 康孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009731

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

おかもと やすたか
岡本 康孝（さけますセンター 業務推進部）

2006 年の北太平洋

漁獲数

第 15 回 NPAFC 年次会議における各国の報告によると、2006 年 1-12 月の北太平洋の漁獲数は 3 億 8,872 万尾で、前年の 4 億 9,139 万尾より 21% 減少しました（図 1A）。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い 2 億 2,553 万尾で全体の 58% を占めており、前年の 3 億 4,397 万尾に比べ 34% 減少しました。次いでサケが 1 億 135 万尾（構成比 26%，対前年比 115%）、ベニザケが 5,513 万尾（構成比 14%，対前年比 108%）と続き、これら 3 魚種で 98% を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ 541 万尾（対前年比 89%）、130 万尾（対前年比 64%）でした（図 1A）。

地域別では、ロシアが 1 億 6,905 万尾と最も多く、以下、アラスカ州 1 億 4,108 万尾、日本 6,842 万尾、カナダ 734 万尾、WOCI 283 万尾、韓国 2 万尾と続いています（図 1B）。

人工ふ化放流数

2006 年 1-12 月に人工ふ化放流された幼稚魚数は 46 億 8,152 万尾で、前年の 48 億 4,660 万尾に比べ 3.4% 減少しました。

魚種別ではサケが 28 億 6,254 万尾で半数以上を占め、これに次ぐカラフトマスの 13 億 658 万尾と合わせると全体の 9 割近くを占めます。

地域別では日本が 20 億 1,645 万尾と最も多く、以下、アラスカ州 14 億 3,610 万尾、ロシア 6 億 8,980 万尾、カナダ 3 億 2,778 万尾、WOCI 2 億 414 万尾、韓国 725 万尾と続いています（図 1C）。

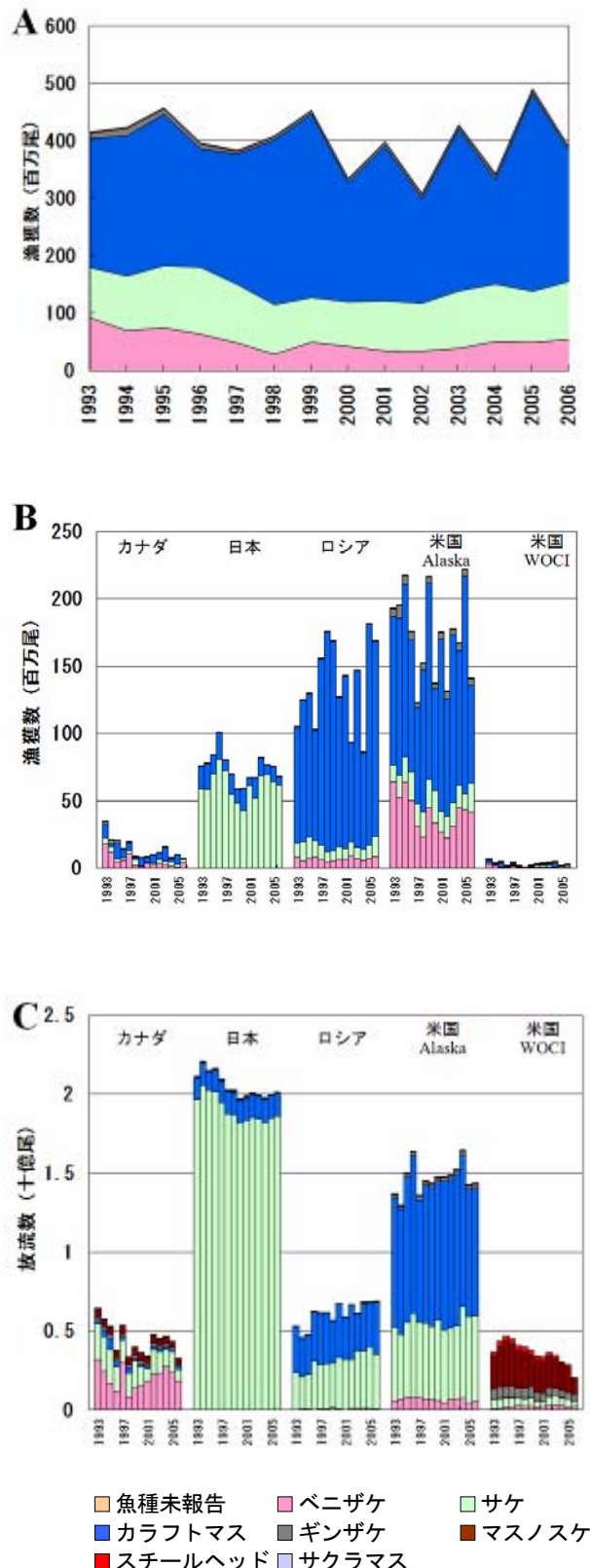


図1. 1993-2006年の北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A)，地域別魚種別の漁獲数 (B) 及び人工ふ化放流数 (C)。1993-2004年は「NPAFC Statistical Yearbook」による商業漁獲数の確定値だが、2005年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値である。1998年までのロシアにはEEZ（排他的経済水域）で他国が漁獲したものを含む。WOCIはワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともにわずかなため、図では省略している。

2007 年度の日本

サケ

2007 年度の来遊数（沿岸での漁獲と内水面での捕獲の合計）は 12 月 10 日現在で 6,543 万尾、前年度同期比 98.5%となっています（図 2）。来遊数の年変動をみると、1996 年度に過去最高を記録した以降、4 年連続で減少しましたが、2000 年度を境に増加傾向に転じ、近年は高水準で推移しています。採卵数は 12 月 10 日現在で 20 億 4,268 万粒を確保し、放流数もほぼ計画どおりの 18 億 2,220 万尾程度となることが見込まれます。

カラフトマス

主産地である北海道における 2007 年度来遊数は 1,484 万尾で前年度比 267%と大きく増加しました。カラフトマスの来遊数は 1994 年に急増して以来、隔年の資源変動を示し、1994-2002 年の偶数年級群での平均が 1,500 万尾、奇数年級群のそれは 700 万尾で、両者にはおよそ 2 倍の開きがありました。しかし、2003 年からその傾向が崩れ、豊漁年と不漁年の順序が逆転しているように見えます。2007 年度についても 1994-2002 年という奇数年にあたる年でありながら、偶数年の昨年よりも多い来遊数となりました。なお、採卵数は 1 億 7,518 万粒でほぼ前年と同数なので、放流数も前年並みの 1 億 4,000 万尾程度となることが見込まれます（図 3）。

サクラマス

2007 年度の北海道における河川捕獲数は 10,381 尾で前年度比 84%と若干減少しました。採卵数は 514 万粒で前年よりも約 100 万粒増加しました。なお、本州の資源については現在調査中です（図 4）。

ベニザケ

2007 年度の河川捕獲数は 989 尾で前年度比 99%となり、昨年に引き続き高い値となりました。採卵数は 83 万粒とほぼ前年どおりとなりました。当センターでは北海道の 3 河川（安平川・静内川・釧路川）でベニザケの人工ふ化放流に取り組んでいます。

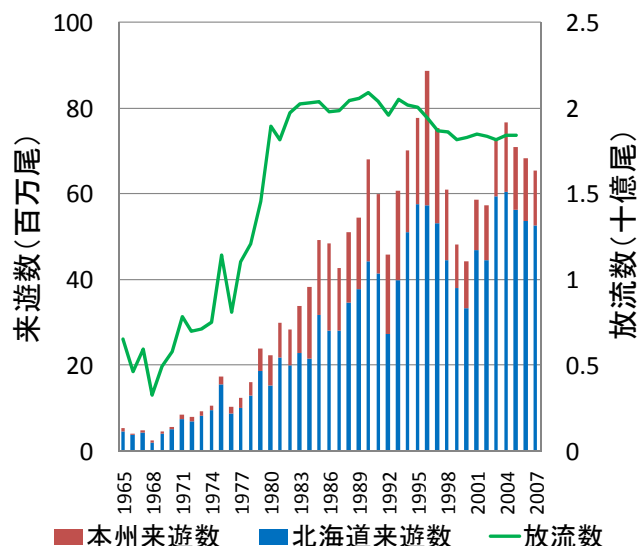


図2. 1965-2007年度の日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2007年度来遊数は12月10日現在。

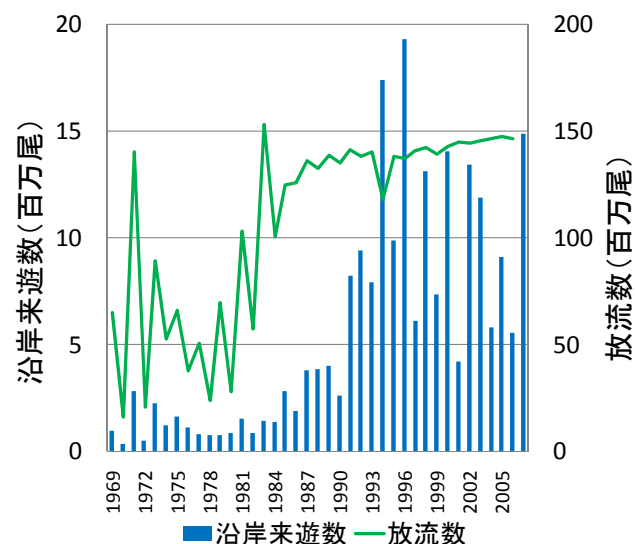


図3. 1969-2007年度の日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

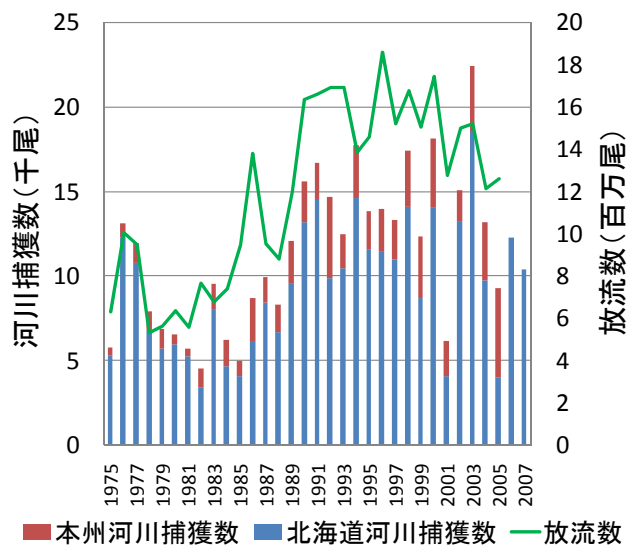


図4. 1975-2007年度の日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。